

私はただ手を口に当てる

ヨブ記 38 章 1-40 章 5 節

はじめに

月の第四週に私が説教をさせていただく時には、旧約聖書の「ヨブ記」からお話することになっています。今日は、38 章から 40 章 5 節に書かれている内容を学びたいと思います。

ここには、神様とヨブの対話が書かれています。神様は 37 章までずっとヨブに対して、沈黙を守ってきました。しかしついに神様が、長い沈黙を破って口を開き、ヨブに語りかけるのです。最初に、「ヨブ記」のこれまでの流れを少し振り返ってみましょう。

1. ヨブの試練と信仰

ヨブは、誠実な心を持っていて、神様を愛し悪から遠ざかっている人でした。神様は、そんなヨブを祝福して、多くの財産と多くの子どもを与えられました。

しかしそんなヨブに、サタンが目留めて、神様にこう言うのです。「ヨブは、あなたに祝福されて、多くの財産と多くの子どもに恵まれているから、あなたを愛しているに過ぎません。もし財産と子どもを失えば、きっとあなたへの信仰を捨てるに違いありません」。

そこで神様はサタンに、ヨブの財産と子どもを奪うことを許可しました。するとヨブは、犯罪や自然災害に巻き込まれて、一日の内にすべての財産と子どもを失ってしまうのです。

しかしヨブは、そのような試練の中でも、決して神様への信仰を捨てませんでした。彼は、神様を礼拝してこう言うのです。「**私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな**」(ヨブ記 1:21)。

するとサタンはもう一度、神様にこう言うのです。「ヨブは、財産と子どもを奪われても、健康に恵まれているから、あなたを愛しているのです。もし健康を失えば、きっとあなたへの信仰を捨てるに違いありません」。

そこで神様はサタンに、ヨブの健康を奪うことを許可しました。するとヨブは、足の裏から頭の先まで、悪性の腫物で侵されるのです。夜眠れないほどの痛みがあり、やせ細っていきます。内臓も侵され、それが原因で体から悪臭が出るようになりました。そのため、人々からも避けられ、ゴミのように扱われます。そして妻からも、「**神を呪って死になさい**」(ヨブ記 2:9)と見捨てられます。

しかしヨブは、そのような試練が続く中でも、決して神様への信仰を捨てませんでした。彼は、妻に向かってこう言うのです。「**あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいをも受けるべきではないか**」(ヨブ記 2:10)。

ヨブは、財産を失い、子どもを失い、健康も失い、妻からも見捨てられてもなお、神様へ

の信仰を捨てなかったのです。これがヨブの信仰です。

2. 三人の友人たちによる「因果応報」による災いの解釈

ヨブには、三人の友人がいました。エリファズ、ビルダデ、ツォファルの三人です。彼らは、ヨブが災いの中で苦しんでいると聞いて、ヨブを慰めるために駆けつけて来ました。彼らは最初、ただヨブのために涙を流し、一週間、一言も語らずに、ヨブのそばに寄り添い続けました。

しかし三人の友人たちは、ヨブと会話を交わし始めると、次第に態度が変わっていきます。ヨブ記は全部で 42 章ありますが、3-31 章までがヨブと三人の友人たちとの討論の内容が書かれています。その討論のテーマは、ヨブの災いの原因は何かというものです。

三人の友人たちは、ヨブの災いの原因を「因果応報」の原理で解釈して、ヨブを教え導こうとします。「因果応報」とは、人は必ず自分の行いによって報いを受けるというものです。三人の友人たちは、ヨブの災いの原因は、ヨブの罪にあると考えます。ヨブが何か大きな罪を犯しているから、このような大きな災いに遭っているのだと考えたのです。だからもし、ヨブが自分の罪を認めて神様に悔い改めるなら、災いは終わり、神様の祝福を取り戻せるはずだとヨブを教え導こうとするのです。

3. ヨブの問題点

しかしヨブは、三人の友人たちの考えに納得できないのです。ヨブは神様に愛され、自分も神様を愛し、そして隣人をも愛してきたのです。ヨブには、このような大きな災いを受けなければならないほどの大きな罪があるとは、どうしても思えなかったのです。もちろんヨブには全く罪がなく、完璧な人間だったわけではありません。ヨブも私たちと同じ人間ですから、確かに罪がありました。しかしヨブは、自分の罪を神様に隠すことなく、神様の前に告白し、赦しを求めたのです。そして贖い主に頼り、いけにえも献げて、罪の贖いをしてきたのです。神様からも、「**彼のように、誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっている者は、地上には一人もいない**」(ヨブ記 1:8)と言われるほど、ヨブと神様との関係には問題はなかったのです。

それなのに突然、神様との親しい交わりを失い、祝福された人生を失い、大きな苦しみに襲われ、孤独と絶望のどん底に突き落とされたのです。ヨブは、神様とサタンとのやり取りを知りません。ですから、神様がなぜ自分をこんな目に遭わせるのか、なぜ神様が沈黙を守っているのか、なぜ助けてくださらないのかが分からないのです。

ヨブは、神様の沈黙があまりにも長く続くので、次第に神様に対して不信感を持つようになっていくのです。自分は誠実に歩んでいるのに、神様が私に誠実に関わってくださらない、そうしてヨブは、神様がおかしい、神様が間違っていると考えようになり、ついには、神様よりも自分のほうが正しいと考えるようになっていったのです。

そのような中で、ヨブの前に「エリフ」という人が現れます。エリフは、ヨブと三人の友

人たちとの討論をずっと聞いていました。しかしずっと聞いている中で、エリフは段々と怒りを覚えてきたのです。それは、ヨブが神様よりも自分のほうが正しいと考えるようになっていったからです。そうしてエリフは、32-37章まで、ヨブのその問題点について語り、ヨブを教え導こうとするのです。ヨブはただただ、エリフの言葉に黙って耳を傾けるのです。

4. 神様はヨブをどう見るか？

エリフの言葉が終わると、38章からついに、神様が長い沈黙を破って、ヨブに対して口を開いていきます。では、神様はヨブをどのように見て、ヨブに対して何を語るのでしょうか。38:2を見てみましょう。「**知識もなしに言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか**」。神様はヨブを、「知識もなしに言い分を述べて、摂理を暗くする者」と見ていたのです。この見方は、基本的にエリフと同じです。エリフも、ヨブのことを「知識もなしに言い分を述べている」と見ていたのです(34:35、35:16)。エリフという人は、神様の言葉がヨブに語られる前に、ヨブの心を整える役割を担っていたと言えます。

「摂理を暗くする」というのは、神様の計画を見失っているということだと思います。ヨブは知識もなく言い分を述べて、神様の計画を見失っていると、神様は言われるのです。神様の計画は、ヨブの知識よりも遥かに広いものです。神様の計画は決して、ヨブの知識の中に収まり切るものではありません。しかしヨブは、自分の知識の中だけで、神様の計画を理解しようとして、かえって神様の計画を誤って捉えていると言われるのです。

神様の計画は、私たち人間の頭ではすべて理解することはできません。なぜこんなことが起こるのか、なぜあんなことが起こるのか、私たちには理解することができないことばかりです。しかし私たちは、自分の限られた知識の中だけで神様の計画を無理に理解しようとして、きっとこういうことに違いない、きっとああいうことに違いないと、決めつけたり、思い込んだりすると、かえって本当の神様の計画を見失ってしまうのだと思います。

神様は、ヨブが、神様よりも自分のほうが正しいと考えて、自分の知識の中で神様御自身と神様の計画を理解できると考えた、そのヨブの高慢さ、高ぶりを問題にするのです。

5. 神様の問い

そこで神様は、38章から39章にかけて、ご自身がどんな方であることをヨブに示していかれます。38章ではおもに、神様が自然を造られ、そのすべてを治めておられることを示していかれます。神様は、陸地を造られ、海を治めておられること、太陽を昇らせ光をもたらされること、世界の隅々まで神様は知っておられ、神様の知らない所はこの世界に一つもないこと、雨や風や雪や雹などの天候もすべて神様が支配しておられること、そして宇宙の星もすべて神様が造られたことなどが示されます。39章ではおもに、神様が動物を造られ、その動物の生態もすべて治めておられることが示されます。神様は、私たち人間の手の及ばない野生動物をも養われ、その出産や成長も見守り、その生態をも治めておられることが示されます。神様は、全世界の自然も命も造られ、そのすべてを今も支えておられる全知全能

の神であることが示されるのです。

これらのことは、もちろんヨブにはできないことです。ヨブは神様に造られ、限られた能力と限られた知識を持つひとりの人間に過ぎません。そのひとりの人間が、全知全能の神様よりも自分を正しいとすることがどれだけ愚かなことか、その全知全能の神様ご自身とその計画を自分の知識と頭の中だけですべて理解できるかのように考えることがどれだけ愚かなことであるかを示されるのです。

6. ヨブの答え

40:4-5には、全知全能の神様の御業、偉大さを示されたヨブの言葉が書かれています。**「ああ、私は取るに足りない者です。あなたに何と口答えできるでしょう。私はただ手を口に当てるばかりです。一度、私は語りました。もう答えません。二度、語りました。もう繰り返しません」**。神様の全知全能の御業、偉大さを突き付けられたヨブは、神様の前に何も語れなくなるのです。これまで友人たちの前で多くの言葉を語ってきたヨブも、神様の前では何も語れなくなってしまったのです。

そして、自分は神様よりも正しいと考えていたヨブは、自分のことを「取るに足りない者」と考えるようになったのです。ヨブは、神様の言葉を聞いて、神様の偉大さを知って、自分に対する認識が変わったのです。自分は神様よりも正しい、自分は神様の計画を理解できると考えていた高ぶり、高慢は打ち砕かれ、「取るに足らない者」であることがはっきりと分かったのです。

おわりに

私たち人間は、神様と出会う時に、自分自身が何者であるかを知ることができるのです。宗教改革者のカルヴァンは、こう言いました。**「神への瞑想に己が思いを真っ直ぐに向けない限り、誰一人として自分自身について考察することはできない。…人間は神の御顔を先ず凝視し、次にこれの直視から自己自身の検討へと下って来るのでなければ、曇りなき自己理解に決して到りえない」**。私たちは神様を知る時に、本当の自分自身を知ることができるのです。私たちは、神様と出会う時に、自分自身が何者であることを知るのです。私たちは、自分自身を見つめて、自分自身にどんなに問いかけても、自分自身を知ることにはできません。また他人と比べても、本当の自分自身を知ることにはできません。私たちは、神様を知らなければ、自分自身を知ることができないのです。

私たちは、神様の計画のすべてを理解することはできません。神様は、私たちの知識や頭の中に収まり切るような小さな方ではないからです。しかし神様は、聖書を通して、ご自身とその計画の一部を私たちに啓示してくださいました。この限りにおいて、私たちは神様とその計画を信じなければなりません。確かなことは、イエス様を信じる私たちを、神様は愛しておられ、私たちが滅びることを望んでおられないということです。私たちは、その神様に信頼し、分からないことは神様の御手に委ねていくことが大切なのではないでしょうか。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、あなたに出会う前は、自分自身を見失い、自分が何者であるかが分かりませんでした。ただただあなたの前に、高ぶった生き方しかできませんでした。しかしあなたに出会い、自分自身が何者であるかを知りました。私たちは全知全能のあなたの御前に、小さく取るに足らない者ですが、それでもあなたがわたしたちを愛し、悔い改めと信仰のゆえにあなたの子どもとして受け入れてくださったことを感謝します。

私たちは、あなたの御計画のすべてを知ることはできません。私たちの人生に起こる出来事の意味のすべてを知ることはできません。しかし、ただあなたに信頼することができますように。あなたの最善の計画があることを信じて委ねることができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。